

# 牛久：学校周辺に見る自然

第33号 ひたち野うしく小学校(みずべ公園)

2019年3月4日発行

## く みずべ公園で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しよう ③鳥 >

1/28(月)29(火)、ひたち野うしく小4年生とのみずべ公園、冬の生きもの観察。今回は、鳥です。



まずは、冬鳥から。ツバメのように日本より南で冬を過ごし春～夏に日本に渡って繁殖する鳥を夏鳥といいますが、北の国で繁殖し冬を越すために日本に渡ってくる鳥を冬鳥といいますが。アオジは北海道など日本の北部から移動してくる「漂鳥」とされるものもありますが、もっと北の国から渡る冬鳥もいます。みずべ公園のアオジは、どこから来るのでしょうか？

漂鳥(ひょうちょう)、または冬鳥(ふゆどり)のアオジ。



シベリアから大群で渡ってくる冬鳥の代表、ツグミ。地面をつついてミミズや昆虫を食べたり、木の実も食べる。

冬鳥の代表ともいえる、ツグミも多く見られました。地面をつついて、ミミズや昆虫を探している姿が観察できましたね。近づくと飛び立ち、木の枝にかくれることもありました。庭のピラカンサなどの木の実も、よく食べていますよ。



ツグミに近い仲間で、やはり冬鳥のシロハラ。落ち葉を散らしながら地面をつつき、ミミズや昆虫を食べる。

そのツグミに近い仲間で、やはり冬鳥のシロハラもけっこう見られました。林の下などツグミより暗い場所で、落ち葉をくちばしで散らしながら地面をつつき、ミミズや昆虫を探していました。これも近づきすぎると、木の枝に飛び立ちました。他に、お腹がオレンジ色のアカハラがいることもあります。



ふゆどり

冬鳥のジョウビタキ(左)と、漂鳥または冬鳥のシメ(右)。ジョウビタキは、雄も雌もなわばりをもつ(写真は雌)。



おす めす

ジョウビタキやシメも、よく見かけます。ジョウビタキは庭にもよくやってきますが、雄も雌もなわばりを持つので、飛んで行ってしまっても待っていると元の場所にもどってくることも多いです。シメは太いくちばしが目立ちますが、このくちばしで、かたい木の実を割って食べます。



ふゆどり

冬鳥のコガモ(左)とヒドリガモ(右)。今年は少ないですね(特にコガモが)。



氷のはった池にも、冬鳥が来ます。カモの仲間、コガモとヒドリガモがいました。どちらも雄は鮮やかなまようをしています。秋に渡ってきたころは雌と同じような色ともようで区別が難しいです。



が、しだいに雄らしい姿に変わり、求愛を始めます。たまたまなのか、この日はどちらも数が少なかったですね。例年なら、他にオカヨシガモやハシビロガモ、マガモも見られますが、この日は見つかりませんでした。

カモの仲間は大部分が冬鳥ですが、カルガモは一年中、日本にいます。氷の少ないところに出てきていましたが、とても寒そうに見えました。

一年中、日本にいる(留鳥:リゅうちょう)カルガモ。



では、後半は一年中日本にいる留鳥を紹介していきます。モズもメジロも、冬になると落葉樹の葉が落ち、目につきやすくなります。

一年中、日本にいる(留鳥:リゅうちょう)モズ(左)とメジロ(右)。



ひだりがわ 左側、上からスズメ、シジュウカラ、ムクドリ。みぎがわ 右側、上からハクセキレイ、バン、コゲラ、ヒヨドリ。いずれも留鳥。りゅうちょう

スズメはたくさんで群れて、地面に降りると草の実などをついばみ、近づくといっせいに逃げていきます。ハクセキレイはちょんちょんとはねるように歩き、地面をつついてエサを探していました。シジュウカラも、地面をつついたり木や草の皮をはいでエサをついばんでいました。ムクドリやヒヨドリは枝にとまっていたましたが、こちらに気がつくとパッと飛んで行ってしまいましたね。バンは警戒心が強いのか、遠くからでもこちらに気がつくとすぐに逃げていきます。夏の繁殖期にはおでこの赤が目立ちますが、冬にはこの赤が消えてしまいます。コゲラは日本最小のキツツキで、冬には木の枝や幹をつついて、そこに巣くう虫を食べます。この日は、クヌギの枝やどんぐりのあたりをしきりにつづいていましたね。



池の枯れ草の中にひそむアオサギ。日本で繁殖するサギの仲間では最大で、魚などを食べる。

池の枯れ草の中で、じっとしてかくれている鳥がいました。アオサギです。日本で繁殖するサギの中では最大で、魚やカエルなどを食べます。よく探すと、カモの仲間もかくれていますよ。



しばらく歩いて行くと、鳥の羽を見つけられました。何かな？あれに似ているなと思いながら進むと、「鳥の死体があるよ〜」と呼んでくれました。見ると、やはりキジバトのようです。最初の羽も、襲われたときのものかもしれません。何に襲われたのか、厳しい世界を見ましたね。その後、エサを探してとことこ歩いているキジバトにも出会いました。みんな、生きるのに必死です。

キジバトの羽(左上)と死体(右上)。エサを探し歩くキジバト(下)。



寒さや飢えに耐えきれず、命を落としてしまうものもいます。死んで浮かんでいたのは、ゴイサギ。まだ、幼鳥のようです。秋に何度か見かけた、あのゴイサギか。悲しく、残念でなりません。みずべ公園の生きものたちに、よい環境が保たれるといいと思います。人間のちょっとした我慢で改善できることは、たくさんあるように思えます。【理科支援員：宮内】  
死んで池に浮かぶ、ゴイサギの幼鳥。